令和6年度　江戸川区立上小岩第二小学校　学校関係者評価報告書（学校経営計画・学校関係者評価シート）

学校教育目標	上二の子どもはやり通す 〇やり通す心・・・よく学ぶ子（今年度重点）、思いやりのある子、よく働く子 〇やり通す体・・・よく遊ぶ子、よく運動する子	目指す学校像 目指す児童像 目指す教師像	〇安全・安心な学校、保護者・地域から信頼される学校 〇明るく元気に学び合える児童 〇教職員が協力し合い、互いに磨き合う教師
前年度までの本校の現状	成果：「確かな学力の向上」では、既習事項の確実な定着を行うことによって意識的な取組が少しずつ成果へと結びつき学力向上がみられる。地域資源を活かした教育では、総合的な学習の時間、生活科、理科等と関連付けて、地域への愛着形成を育むことができた。	課題	・学習意欲や基礎学力の向上、体力向上に向けた運動量の確保 ・自ら進んで挨拶や返事をすることや学習習慣が身に付けられるように家庭と連携して取り組むとともに、学校から積極的に情報発信をしていくこと ・教室環境や児童とのかかわり方についてさらなる改善を目指すために、研修会や校内支援委員会等を充実させること

重点	取組項目	具体的な取組内容	数値目標	達成度		「中間」自己（学校）評価(A～D)		「中間」学校関係者評価(A～D)		「年度末」自己（学校）評価（A～D）		「年度末」学校関係者評価（A～D）		次年度に向けた改善案
				9月	2月	評価	コメント	評価	コメント	評価	コメント	評価	コメント	
学力の向上	〇授業改善の推進、学習の基盤となる基礎・基本の確実な習得、家庭学習習慣に対しての学校の組織的な対応による取組の実施・充実	・学校と民間事業者による放課後補習教室の実施 ・教員の授業力向上	・放課後補習教室への登録率100% ・校内研修会１回と授業３回の実施。	B	B	B	・放課後学習教室参加児童を後期にも募集をする。。 ・校内研究授業を１回実施した。	B	・放課後学習教室の参加率を上げるとよい。	B	・放課後学習に参加する意欲のある児童は、学力が定着しつつある。 ・校内研究授業を３回、外部講師を招いた授業公開も本校で実施し、授業力向上に努めた。	B	・放課後の学習教室に参加する児童が増えていることは、今後の学習向上に期待したい。 ・学力をフォローする場があることは、必要な児童にとってはありがたいことだ。	・学力向上を目指して意欲のある児童は放課後学習教室に参加できるようにする。
		・週1回の全校一斉朝学習の実施	・児童へのアンケート結果で、80%以上の児童が学力を高めようとしていると回答	A	A	A	・児童へのアンケート調査で93%の児童が学力を高めようとしていると回答している。	A	・学校授業の理解を深めるためにも朝学習時に復習テスト等をすると効果的だと思う。	A	・児童へのアンケート結果で、年度当初の目標80%以上の児童が学力を高めようとしていると回答している。	A	・朝学習に取り組むことにより、児童の更なる学習意欲の向上につながるのであれば、積極的に推進してほしい。	・江戸川区学力調査とドリルパークを連携して「わかった、できた」の達成感の味わえる経験を増やしていく。
	〇読書科の更なる充実	・公共図書館巡回職員による探究学習の授業の実施	・学期に1回、全学年で実施	B	A	B	・高学年は、探究型学習をするにあたって、公共図書館巡回職員による本の紹介を実施した。	B	・図書館に行く機会があると良い。 ・読書する習慣を付ける。 ・高学年以外は２学期以降実施	B	・２年生の図書館見学や総合的な学習時間での探求的な学習で図書館の本を活用できるような場が設定されていた。	B	・小学生のときに読書する習慣が付くとよい。 ・家庭でも本に親しむ機会をもってもらいたい。	・学校図書館蔵書管理システム導入に伴い、探求型学習に必要な本が探しやすくなるようにする。
体力の向上	〇個に応じた体力向上のための取り組みの実施・充実	・中休みを30分間にして外遊びの充実	・児童へのアンケート結果で、日常的に運動していると回答している児童が２０%以上増加	B	B	B	・アンケート結果から中休みや昼休み、放課後を通して日常的に運動をしている児童が84%である。引き続き、校庭遊びをするように声をかける。	B	・中休みが体力の向上に即効果があるとは思わないが、楽しく運動できるならば推進してもらいたい。 ・年度当初もアンケートする。	B	・児童へのアンケート結果で、80%以上の児童が日常的に運動をしていると回答している。さらに、児童に運動をしている児童を増やしていく。	B	・楽しく運動ができるように推進してほしい。 ・校庭遊びで運動を通したコミュニケーションづくりができるとよい。	・３０分休みを有効的に活用し、自由遊びの他になわ跳びタイム・マラソンタイム等の期間を設定する。
		・学期に1回のなわ跳び週間の設定	・１００%の児童が縄跳び週間に参加	A	A	A	・１学期のなわ跳び週間では、全員が縄跳びに取り組む姿が見られた。	A	・基礎体力の向上に役立つ取組で大変良い。	A	・なわ跳びカードを使って全員が取り組み、いろいろな技に挑戦している姿が見られた。	A	・二重跳び等の技ができるようになった児童も多い。 ・なわ跳びが苦手な児童にも別メニューがあるとよい。	・引き続き、なわ跳びカードを効果的に活用していく。
共生社会の実現に向けた教育の推進	〇ユニバーサルデザインの視点を取り入れた個に応じた指導の実施・充実	・巡回指導や特別支援教室専門員の活用、日本語指導員や日本語教室との連携	・毎月1回、通常学級担当教員と特別支援教育担当教員の打ち合わせを実施	A	A	A	・毎週1回、通常学級担当教員と特別支援教育担当教員の打ち合わせを実施している。	A	・今後も継続して実施してもらいたい。	A	・特別支援教室との連携だけでなく、日本語通級拠点校や日本語指導員との連携を取りながら個に応じた指導を実施することができた。	A	・外国から転入学する児童も多くなっているので、個に応じた日本語指導を継続してほしい。	・個に応じた指導ができるように、関係の教員と連携を深める。
	〇エンカレッジルームの有効活用	・エンカレッジルームの保護者への理解啓発	・年２回の保護者会や学校公開でエンカレッジルームを紹介	A	A	A	・１学期の学校公開（学校説明会）でエンカレッジルームの公開をして紹介できた。	A	・前回の学校公開時にエンカレッジルームを公開していたので、保護者の理解が深まると良い。	A	・学校公開等でエンカレッジルームの説明をすることができた。 ・児童の有効的なエンカレッジルームの活用ができた。	A	・エンカレッジルームの存在の理解をより深めてもらえるとよい。	・引き続き、エンカレッジルームへの理解が深まるように情報発信していく。
	〇副籍交流	・学校だより等での交流実施	・毎月1回、学校だよりを校内に掲示	A	A	A	・毎月1回、学校だよりを校内に掲示できている。	A	・相互理解を進め、共生社会を形成するように継続するとよい。 ・学校だよりを教材にする。	A	・毎月1回、学校だよりを校内に掲示したり、実際に副籍交流できるか交流先の教員とも話し合いができた。	B	・交流先の教員とも話し合いをすすめ副籍交流を具体的にすすめてほしい。	・必要に応じて副籍交流を実施していく。
不登校・いじめ対応の充実	〇豊かな心の育成	・委員会活動や係・当番活動、異学年交流などの充実	・児童へのアンケート結果で、80%以上が異学年交流に意欲的に取り組んでいると回答	A	A	A	・児童へのアンケート結果で、80%が異学年交流に意欲的に取り組んでいると回答している。	A	・学年の垣根を超えた大きな「仲間」として異議ある交流だと思う。	A	・児童へのアンケート結果で、90%が異学年交流に意欲的に取り組んでいると回答している。	A	・90%の児童が異学年交流に意欲的に取り組んでおり評価できる。	・たてわり班での全校士手遊びを学期に１回は計画・実施して異学年交流に取り組んでいく。
	〇hyper-QUの活用	・Hyper－QUテストの児童の実態把握に基づいた指導の推進	・年に1回校内でQU研修会の実施や一人一人との個別面談	B	B	B	・学期末には児童一人一人に声をかけながら、成果をほめることができた。QUについては、実態把握をして今後に活かす。	B	・一人一人の自己肯定感を高めてもらいたい。	B	・児童一人一人の肯定感を高めながら、QUテストの結果を学級経営に活かした。	B	・QUテストの結果は客観的に児童同士の関係を把握できるが、定期的に児童との個別面談を実施することも大切だ。	・今年度から導入したL-Gateを活用しながら児童の実態を把握し、児童理解に努める。
	〇教育相談の強化	・スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーとの連携強化	・不登校児童とのＳＣ、ＳＳＷ連携率100%	A	A	B	・スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーとの連携を密にして、今後も１００%連携できるようにする。	A	・今後も関係諸機関を連携を密にしてもらいたい。	A	・スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーとの連携を密にすることができた。	A	・今後も外部相談機関とも連携をとってもらいたい。	・スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーとの連携率１００%を目指す。
地域社会に開かれた学校（園）の実現	〇学校（園）ホームページの充実等	・学校ホームページの更新	・毎日更新を実施	B	A	B	・給食のメニューだけでなく、できごとやお知らせも随時更新していく。	A	・学校ホームページの更新を楽しみにしている。 ・特定の教員が更新するのではなく、当番制にするとよい。	A	・給食のメニューだけでなく、できごとやお知らせも随時更新することができた。	A	・ホームページは良くできている。 ・全員で更新できるように、さらに活用をしてもらいたい。	・学校ホームページの更新は全学年で実施していく体制をつくる。
	〇学校関係者評価の充実	・児童、保護者、地域、教職員へのアンケート調査の実施	・年間に1回以上実施	B	B	B	・児童へのアンケートは１学期実施、それ以外は２学期以降に実施する。	B	・実際に学校を見て学校について知っていきたい。	B	・児童アンケートや学校関係者評価を実施し、今後の教育活動を充実していく。	B	・安全面の懸念はあるが、地域に広く学校を公開するイベントがあってもよい。	・児童、保護者、地域、教職員へのアンケートの内容を精査して調査を実施していく。
特色ある教育の展開	〇働き方改革の推進	・月２回の定時退勤日の設定	・全教職員の月残業時間４５時間以下	B	A	B	・全教職員の月残業時間が減少傾向にあり、全教職員の月残業時間４５時間以下達成の月があった。	B	・仕事内容と量が適正になり、過度な残業がなくなるとよい。 ・PTA本部への協力依頼もあってよい。	A	・定時退勤日を月２回設定したが、優先順位をつけて仕事をすることによって定時に退勤できる日が増えた。	B	・定時に退出する日が増えたことは、よかった。 ・デジタル化を推進して残業時間の削減に取り組んでほしい。	・全教職員の月残業時間を減らすような仕事内容・分担を考えていく。
	〇教員研修の実施	・教員の組織的な育成	・年３回の授業観察や校内研究の分科会毎の授業を全教員が公開	A	A	A	・学期毎の授業観察や校内研究の授業等を全教員公開している。	A	・教職員の研修をし続けてもらたい。	A	・自主的に授業を公開する教員が増え、授業力向上に向けての意識が高まっている。	A	・児童が学校が楽しいと思わせる教員を増やしてもらいたい。	・授業力向上のために、校内研究やOJTの活性化をして教員の意識を高めていく。